

景気動向調査の概要について【2026年1～3月】

令和8年4月22日
富山商工会議所

「足踏み状態」が7割を占め、景況感の悪化と不透明な停滞感が強まる

景気の現況は、「緩やかに回復している」が17.9%と前期比12.9ポイント減少し、最も多い「足踏み状態」は71.4%と前期比9.8ポイント増加、「緩やかに後退している」は7.1%と前期比3.2ポイント増加した。「緩やかに回復している」との回答が大きく減少した一方で、「足踏み状態」や「緩やかに後退している」という停滞・悪化を示す回答が増加した。

今期の業況判断DIは、14.8ポイント減少の△7.1(前期7.7)、来期の見通しDIは7.6ポイント減少の0.0(前期7.6)となった。前期の好調な状態から今期に明確な落ち込みを見せ、企業が景況感の悪化を実感する状況を示した。足元の景気後退を感じている企業が増し、当面は不透明で停滞感続く状況を示した。

製造業は一般機械で、欧米・中国の建機向け油圧機器やベアリング関連が好調な反面、カーハイドロリクスやロボット関連は需要の減少で不調。電気機械は、通信機器や人工衛星用の電子部品が好調だが、中国経済の低迷で家電・産業機器分野の電子部品の需要は弱含みで推移。プラスチックはベビー用品が堅調な一方、ハウス用品は量販店の販売キャンペーン終了の反動で不調。医薬品はジェネリック等の需要が増加し好調。紙加工は薬業界の回復基調にある医薬品向け段ボールや、自動化ニーズの高まりを受けて包装システムが好調な一方、住宅着工の減少でアルミ建材向け段ボールや中国向けの受注減少で印刷包材が不調。紙流通加工は値上げ前の特需によりパッケージ用板紙が好調となったが、デジタル化や人口減少でグラフィック用紙が不調。

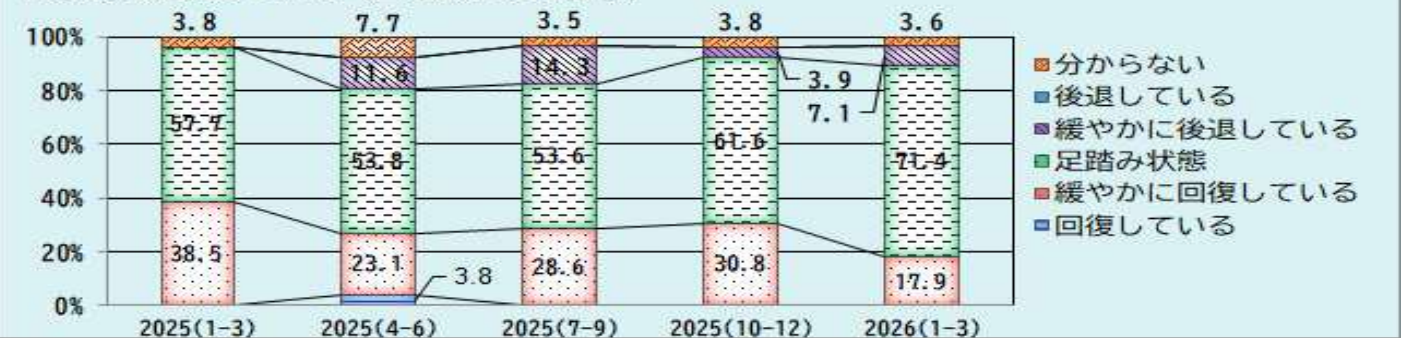
非製造業では、大型店は富裕層向け高額品や観光客の増加による飲食や土産物が好調な一方、物価高と節約志向により一般層の衣料品や家電は買い控えて不調。飲食は宴会等の回復が見られ、旅行は中東情勢の不安により一部の海外ツアーが取消。情報通信は医療や産業分野が好調だが公共分野は不調。リースは貨物運送や自動車ディーラーのニーズにより車両リースが好調となったが、特定機器の需要の減退により情報関連・土木機械・医療機器のリースは不調。不動産は富山駅周辺の引き合いが多く活況な一方、郊外の不動産取引は景気や人口減少の影響で鈍化した。

今回、中東情勢の緊迫化による自社や業界への影響と、そのコストに対する収益確保の対策を聞いた。

製造業では、原材料や石油由来の資材高騰によるコスト圧迫が顕著で、資材の供給不足の懸念や下請企業の収益悪化が生じている。非製造業では、燃油費や電力料金の上昇が運輸・飲食・小売等の利益を圧迫しており、コスト増や価格転嫁への不安が広がっている。

収益確保の対策については、製造業は、製品への価格転嫁を軸としつつ、製造現場の自動化や生産性向上による原価低減、さらには原材料の先行発注などが進められている。非製造業では、価格転嫁や燃油サーチャージの徴収に加えて、配送ルートの効率化、販管費や広告費の圧縮など、コスト構造全般の見直しによる対策が図られている。

1. 景気の現状について（四半期ごとの推移）



2. 前期との比較と来期の見通し

	2025年1-3月期	2025年4-6月期	2025年7-9月期	2025年10-12月期	2026年1-3月期	2026年4-6月期
前期比	好転	30.8	15.4	14.3	19.2	14.3
	不変	46.1	69.2	64.3	69.2	64.3
	悪化	23.1	15.4	21.4	11.5	21.4
	DI	7.7	0.0	△7.1	7.7	△7.1
来期の見通し	好転	20.7	30.8	23.1	21.4	11.5
	不変	62.1	57.7	69.2	64.3	84.6
	悪化	17.2	11.5	7.7	14.3	3.9
	DI	3.5	19.3	15.4	7.1	7.6

<実施要領>

- 調査期間 2026年3月19日～2026年4月3日
- 調査対象 当所景気モニター企業29社
- 調査方法 調査票を郵送しFAX又はGoogle Formで回収
- 有効回答数 28社(回収率96.6%)